



African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大

現代アフリカ地域研究センター

平成 29 年度 活動報告

1. 概要

現代アフリカ地域研究センターの設置と活動は、東京外国語大学が掲げる戦略2「世界と日本の問題解決に資する研究の推進」の中で、平成 29 年度より新たに開始する取組8「多面的アフリカ国際研究の推進」に位置付けられる取組みである。本取組では、国内外の研究機関と連携し、現代アフリカの諸問題に関する研究ネットワークを構築するとともに、このネットワークによる人的交流を活用して、現代アフリカの多面的問題に対応可能な人材を養成することを目的とする。設置初年度における現代アフリカ地域研究センターの活動は、この方針に沿った形で実施された。

現代アフリカ地域研究センターが主催した事業としては、開所式（5月11日）の他、キックオフ・シンポジウム（11月3日）や11回に及ぶASCセミナーを開催した。また、京都大学アフリカ地域研究資料センターとの間で研究セミナー（TUFS-KUASSセミナー）を共同主催したほか、日本アフリカ学会関東支部例会をはじめ複数のイベントを共催した。

国内外でネットワーキング活動を積極的に行った。7～8月にはセネガル、ガーナ、南アフリカの4大学、2～3月にはルワンダ、南アフリカの2大学を訪問するなど、内外で現代アフリカ地域研究センターの活動を説明し、様々な形で協力関係構築に努めた。この成果として、平成30年度に、ガーナからの交換留学生の来日やプレトリア大学との共同セミナー開催などが見込まれている。国内では、複数の大学・研究機関を訪問したほか、10月に地域研究コンソーシアム（JCAS）総会に新規加盟団体として出席、挨拶するなど、地域研究関連学術団体で活動を紹介した。

交換留学の活性化は大学間交流の重要な要素である。ただし、アフリカ人留学生の来日を増加させるためには、彼らの渡航費・滞在費支援が欠かせない。そのため、その支援に充てることを主たる目的として、ファンドレイジング活動を実施した。

7月にホームページを開設し、センターに関する情報やその活動報告を積極的に掲載した。加えて、ツイッターとフェイスブックを開始し、アフリカに関する最新情報分析やセンターの広報活動に利用している。

2. 活動実績

2-1.開所式

5月11日(木)に本部管理棟2階大会議室にて開所式を開催した。開所式には、アフリカ19ヶ国の駐日大使館関係者(大使を含む)や、文科省、外務省、政府関係機関、大学等研究機関などから70人以上が出席した。本学学生も多数参加し、その後のレセプションも盛況であった。

2-2.シンポジウム、セミナー

a)キックオフシンポジウム

11月3日(金)、現代アフリカ地域研究センターの活動開始を記念して、キックオフシンポジウムを開催した。3名のアフリカ人研究者、3名の外部コメンテーターを招き、センター所属の3名の研究者が報告した。(添付資料)

b)ASC セミナー

現代アフリカ地域研究センターが主催するセミナーを「ASC セミナー」と命名し、ウェブサイトやSNSに加えて独自に構築したメーリングリストで広報している。平成29年度は、下記3-1.に示す通り、計11回のセミナーを開催した。うち、第2、6、7、8回は国際セミナーであった。京都大学アフリカ地域研究資料センターとの共同主催によるセミナー(東京開催の場合は「TUFS-KU セミナー」、京都開催の場合は「KU-TUFS セミナー」と称する)を制度化させた。

別添にASC セミナーのチラシを付す。

c)その他、協力イベント

以上のシンポジウム、セミナーの他にも、下記3-2.に示す通り、様々なイベントに対して主催、共催、協力などの形で協力した。

2-3.研究活動

平成29年度における現代アフリカ地域研究センターに所属するセンター教員の研究活動は、下記4-1.に示す通りである。

2-4.教育活動

平成29年度における現代アフリカ地域研究センターに所属するセンター教員の教育活動は、下記4-2.に示す通りである。

2-5. ネットワーキング

研究ネットワークの構築は現代アフリカ地域研究センターの重要なミッションであり、平成29年度は国内外で積極的に活動した。

国内に関しては、アフリカ研究に関連する大学、研究機関の訪問はもとより、地域研究関連学術団体(日本学術会議地域研究委員会、地域研究学会連絡協議会、地域研究コンソーシアム)の会合に参加し、

センターの紹介を行った。また、京都大学アフリカ地域研究資料センターとの間で TUFUS-KU セミナーを制度化したり、東京農工大との間で共同セミナーを開催したりするなど、研究活動の協働を通じて実質的な関係構築に努めた。

海外の研究機関としては、センター長と特任研究員がシェイク・アンタ・ディオップ大学（セネガル、7月）、ガーナ大学（ガーナ、7月、2～3月）、プレトリア大学（南ア、7月、3月）、ステレンボッシュ大学（7月）、アジスアベバ大学（エチオピア、9月、2月）、ウィスコンシン大学マジソン校（米国、11月）、プロテスタント人文・社会科学大学（ルワンダ、2月）、などを訪問することができた。これらは、今後留学生の交流や共同研究を通じた実質的な関係構築のための布石だが、今年度の活動によって、ガーナ大学からの交換留学生1名が平成30年度夏学期に来ることが決まり、またプレトリア大学との間で平成30年9月に共同セミナー開催が合意されるなど、徐々に成果が現れている。

アフリカ人研究者とのネットワーク構築は、キックオフシンポジウムを通じて深まった。エチオピア、ガーナ、カメルーンから1名ずつ研究者を招聘し、うちカメルーンの研究者には3か月間の滞在期間中、国際農林水産業研究センター、京都大学、東京農工大学でも講演してもらい、国内ネットワーク構築にも役立てた。

なお、センターに対する主要来訪者一覧を下記3-3.に、また主要なメディア掲載記事一覧を下記3-4.に示す。

2-6. 交換留学の活性化とファンドレイジング

東京外国語大学はアフリカ9か国の11大学との間で研究教育交流協定（MOU）を結んでおり、学生の留学も実績がある。しかし、交換留学の枠組みであるにもかかわらず、日本からアフリカへの学生留学はあっても、PCS（Peace and conflict studies 修士課程）を除けば、サブサハラアフリカ諸国から日本への学生留学の実績は全くない。これは、アフリカから日本への学部学生の留学に様々な障害があるためである。学生交流は研究交流のベースになるものだし、学部学生への教育効果も大きい。この点を考慮して、可能な範囲で学部学生の交換留学を支援する方針を固めた。

学部学生の交換留学を促進するためには、ファンドレイジングが不可欠である。なぜなら、アフリカ人学生の留学が進まない最大の要因は、往復航空運賃と日本での滞在費を捻出できない点にあるからである。ファンドレイジングに関しては、平成29年度に2件の進展があった。第1に、Toyota-Ghana 社がガーナ大学からの留学生に対して往復航空券（2名分）を提供して下さることになった。第2に、矢崎総業株式会社が南アフリカとモロッコからの留学生に対して、一人当たり40万円の渡航費・滞在費5人分を提供して下さることになった。また、今後の展開として、クラウドファンディングの可能性も模索している。

こうした進展があった反面で、課題も多く見つかった。第1に、アフリカの大学側の反応が悪く、様々な手段を用いて対応を促す必要がある。そもそもアフリカの大学の多くは、学部学生の交換留学という制度に不慣れである。彼らの大学が留学制度としてフォーカスしているのは、多くの場合修士課程以上である。そのため、本学が求める手続きに合わせて書類を提出してもらうために、幾度となく説明や督促をするなど、きめ細かなフォローが必要である。経済的な理由だけが、学生の留学が進まない理由ではない。第2に、交換留学の仕組みに対する制度的支援の枠組みが少ない。交換留学は留学期間が1年に満たず、非正規生の扱いになる。こうした特徴を持つために、既存の留学生支援制度に位置付けて支援しに

くいところがある。平成 29 年度中にトップレベルで支援の意向を表明した企業があったが、その企業が有する既存の留学生支援制度になじまないという理由で、実施に至らないままになっている。

今年度、交換留学活性化のために様々な努力をした結果、平成 30 年 4 月よりガーナ大学から 1 名学部生が来日することになった。ガーナからの航空運賃補助には 2 名の枠があったが、1 名の推薦が精いっぱいであり、南アフリカからは 1 名応募があったものの奨学金取得の水準をクリアできず、結局は申請を取り下げた。モロッコは、MOU の更新さえ難儀している状態である。

明らかに、経済的誘因だけで交換留学が活性化できるわけではない。留学生課、国際化拠点室や担当教員と協働しながら、多様な形で先方にアプローチしなければならない。アフリカからの留学生を学部レベルで増加させることは、今後の日本・アフリカ関係に大きな意味を持つと考える。幸い、ガーナや南アでは日本大使館や JICA も協力的なので、軌道に乗せるべく努力を続けたい。

2-7. ウェブサイト、SNS による情報発信

本センターでは、発足時よりインターネットを利用した情報発信を重視してきた。平成 29 年 7 月にウェブサイトが開設されたが、それ以来、活動記録や研究成果、またアフリカで起こった出来事についての短信など、多様な形での情報発信を行っている。同時に、フェイスブック、ツイッターでも情報発信に努めている。3 月 14 日現在、フェイスブック、ツイッターのフォロワー数はそれぞれ 124 人、209 人である。

3. 活動記録

3-1.ASC セミナー一覧

回	開催日	開催場所	講師	報告タイトル
1	6 月 7 日	府中キャンパス	武内進一（現代アフリカ地域研究センター長）	アフリカ情勢を知ること、それを分析すること
2	6 月 14 日	府中キャンパス	Getaneh Mehari (Addis Ababa University)	“Fighting food insecurity in the Gamo Highlands of Ethiopia: Agricultural intervention modalities and smallholders' determination to craft experience-based solutions” (第 1 回 TUFs-KU セミナー)
3	6 月 29 日	府中キャンパス	澤田洋典（駐アンゴラ特命全権大使）	転換期のアンゴラと日アンゴラ関係
4	9 月 27 日	本郷サテライト	松波康男（現代アフリカ地域研究センター特任研究員）	南スーダンの現状と国際社会の関与
5	10 月 6 日	府中キャンパス	坪井麻記（国連南スーダンミッション政務官）	南スーダン危機における和平プロセスと今後の展望
6	10 月 20 日	府中キャンパス	Rémy BAZENGUISSA-GANGA (IMAF-EHESS)	The concept of “electoral war” (第 2 回 TUFs-KU セミナー)
7	11 月 30 日	府中キャンパス	Antoine Socpa (University of Yaounde I)	Perceptions and Responses to Asian Entrepreneurship: Case Study of Competition Between Cameroonians and Chinese Traders (第 3 回 TUFs-KU セミナー)

8	12月4日	府中キャンパス	Dr. Kazuyuki Sasaki and Ms. Floriane Niyungeko (Protestant Institute of Art and Social Science: PIASS)	Searching for Peace in Burundi
9	12月14日	府中キャンパス	中村裕加(内閣府国際平和協力本部事務局)	南スーダン 西バハル・エル・ガザル州の現状と課題
10	12月18日	府中キャンパス	黒崎龍悟(高崎経済大学准教授)	アフリカの器用仕事(ブリコラージュ)に学ぶ
11	1月12日	本郷サテライト	大竹モルナー裕子(オックスフォード大学医療人類学部 客員研究員)	語れない傷、語らない癒し～北部ルワンダにおける紛争後コミュニティ復興と人道支援再考～

3-2.協力イベント一覧

関連	日時	イベント名	主催
後援	11月2日	Is Female Genital Modification (FGM) a Development Issue in Africa?: Evidence Based Analysis from the Pokot Kenya-Uganda Border Ethnography	主催：平成29年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)「女性研究者による国際共同研究」 共催：「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究 ジェンダー・セクシュアリティ班
協力	11月4日～5日	国際シンポジウム「急速に発展／変化をとげるアジア・アフリカ諸社会における経済格差、都市化、そして紛争経験後に直面する家族の変容」	主催：平成29年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)「女性研究者による国際共同研究」 後援：アジア・アフリカ言語文化研究所
共催	11月24日	中部アフリカ研究会 in TOKYO vol.1	主催：東京外国語大学国際社会学部大石ゼミ、科研基盤(A)「コンゴ盆地における水陸ネットワークと社会生態環境の再編」(研究代表：木村大治京都大学教授)
主催	12月4日～22日	アフリカンブリコラージュ写真展・第1回アフリカ写真コンテスト入賞作品展	アフリカンウィークス運営委員会(Femme Café、アフリカ地域専攻共同参加)、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
主催	12月4日～22日	アフリカ絵本展&おはなし会	主催：アフリカンウィークス運営委員会(Femme Café、アフリカ地域専攻共同参加)、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター 協力：アフリカ子どもの本プロジェクト
後援	12月8日	HSPセミナー「現代アフリカの土地と権力」	科学研究費補助金(基盤研究(C))「アフリカにおけるミクロな紛争のマクロ化：現地調査に基づいたシミュレーション解析」

協力	12月10日	エチオピア映画「テザ 慟哭の大地」 特別上映&講演会	主催：アフリカンウィークス実行委員会 (東京外国語大学学生団体 FemmeCafé/同 大アフリカ地域専攻有志) 協力：シネマトリックス、東京外国語大 学 現代アフリカ地域研究センター、東京 外国語大学 TUFU Cinema
共同 主催	12月15日	【第4回 KU-TUFU セミナー】「カ メルーンにおけるカカオ・アグロフ ォレスト運営と REDD プラスの力 学」	共同主催：京都大学アフリカ地域研究資料 センター、東京外国語大学現代アフリカ地 域研究センター
共催	12月23日	ミニ・シンポジウム「Regional Biological Resources in Tropical Africa」	共催：東京農工大学国際環境農学専攻、東 京外国語大額現代アフリカ地域研究センタ ー
共催	1月29日	国際シンポジウム「日本—アフリカ 関係を通じたグローバル資本主義の 批判的検討：土地、空間、近代性」	共催：東京外国語大学 大学院国際日本学 研究院
共催	2月5日	国際ワークショップ「カメルーンの バカ・ピグミーにおける環境教育の 可能性」	共催：カダップ(NGO)、東京外国語大学現 代アフリカ地域研究センター、京都大学東 南アジア研究所、アソシエーション・オカ ニ(NGO)、千年紀生態学博物館(NGO)、ド ゥアラ大学

3-3.主要来訪者一覧

平成 29 年 7 月 14 日	プレトリア大学 ヴァス・レディ人文学部長、マクシ・スクーマン副学部長
平成 29 年 9 月 21 日	プレトリア大学 Dr. Wangenge G. Ouma (プレトリア大学)
平成 29 年 10 月 11 日	駐日ジンバブエ大使館 ロイド・シーレ臨時代理大使、タオナ・ハバディ参事官
平成 29 年 10 月 18 日	駐日ザンビア大使館 ンディヨイ M. ムティティ駐日ザンビア大使ほか 1 名
平成 29 年 10 月 25 日	駐日タンザニア大使館 ジョン・F・カンボナ全権公使、ベナデタ・F・マリマ全 権公使
平成 29 年 11 月 1 日	駐日南アフリカ大使館 スラニ・ディロモ大使他 2 名
平成 29 年 11 月 8 日	駐日ナミビア大使館 ソフィア=ナムパ・ナンコンベ大使
平成 29 年 11 月 29 日	駐日マラウイ大使館 グレネンガー・キドニー・ムスリラ・バンダ大使
平成 29 年 12 月 6 日	駐日レソト王国館 マシゴアネング・モソトアネムポロ第一書記官
平成 29 年 12 月 13 日	駐日マダガスカル共和国大使館 ララティアナ・ラソアマナリヴォ臨時代理大使
平成 30 年 1 月 10 日	駐日ボツワナ共和国大使館 カテホ・ペレー一等書記官
平成 30 年 1 月 17 日	駐日アンゴラ共和国大使館 マニュエル・ドミンゴス・ノゲイラ公使、ヘルダー・ J・T・コンゴ領事担当官
平成 30 年 2 月 15 日	つくば国際スポーツアカデミー (TIAS) 真田久学群長、金子助教ほか
平成 30 年 2 月 21 日	アフリカ政策研究所 (ケニア) ピーター・カグワンジャ所長

3-4.主要メディア掲載記事一覧

発行日	掲載媒体／記事名	備考
平成 29 年 5 月 11 日	時事通信「東京外大アフリカ研究拠点＝経済成長で重要性増す」	開所式の紹介記事
平成 29 年 5 月 12 日	読売新聞 朝刊 31 面「アフリカ研究センター開所」	開所式の紹介記事
平成 29 年 5 月 12 日	毎日新聞「アフリカ地域との深化目指す 研究センター開設」	開所式の紹介記事
平成 29 年 5 月 25 日	日刊工業新聞「東京外大、アフリカ研究センター開設」	開所式の紹介記事
平成 29 年 5 月 27 日	朝日新聞「こどもの未来へ『現代アフリカ学ぶ新拠点』」	武内センター長のインタビュー有り
平成 29 年 6 月 28 日	日本経済新聞夕刊 2 面「フォーカス」	武内センター長紹介記事
平成 29 年 11 月 22 日	公明新聞 4 面「揺らぐデモクラシーと世界秩序の変容」(日本国際政治学会研究大会から)	日本国際政治学会共通論題(平成 29 年 10 月 28 日、武内パネリスト)の議論の紹介

4. センター教員の業績

4-1.研究活動

【編著】

深澤秀夫・ラザフィアリヴニ・ミシェル共編訳(2018)『マダガスカルの民話 I』(アジア・アフリカ言語文化研究所)、電子出版。

深澤秀夫・ラザフィアリヴニ・ミシェル・飯田卓・西本希呼共編訳(2018)『マダガスカルの民話 II』(アジア・アフリカ言語文化研究所)、電子出版。

椎野若菜・白石壮一郎(2017)『社会問題と出会う (FENICS 100 万人のフィールドワーカーシリーズ 7)』(古今書院)。

椎野若菜・福井幸太郎(2017)『マスメディアとフィールドワーカー (FENICS 100 万人のフィールドワーカーシリーズ 6)』(古今書院)。

Wakana SHIINO, Kirumira Edward, Soichiro SHIRAISHI, and Christine Mbabazi Eds. (2018) *Diversification and Reorganization of 'Family' in Uganda and Kenya: A Cross-cultural analysis*. Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.

武内進一(2017)『現代アフリカの土地と権力』(アジア経済研究所)、viii + 315p. (査読有り)

【論文】

Kazue DEMACHI (2017) “TVET as the last educational chance: Employability and family background of Ethiopian urban youth” *IDE Discussion Paper* 671.

荻谷康太(2017)「初期ソコト・カリフ国における背教規定」、『アジア・アフリカ言語文化研究』94: 137-177. (査読有り)

Kota KARIYA (2018) “A Revolt in the Early Sokoto Caliphate: Muḥammad Bello’s Sard al-Kalām”. *Journal of Asian and African Studies* 95. (査読有り)

荻谷康太(2018)「十七世紀の西アフリカにおける奴隷化の論理：アフマド・バーバー『階梯』の分析」、『史林』101(1): 頁数未定. (査読有り)

石川博樹(2017)「エチオピア正教会について」三代川寛子編著『東方キリスト教諸教会：研究案内と基礎データ』（明石書店）、pp. 148-153.

桐越仁美(2018)「西アフリカにおける若者の商売展開—コーラ交易を通じた信用の形成と拡散—」、『アフリカレポート』56: 22-35. (査読有り)

松波康男(2017)「ハドラに集う女性たち」、石原美奈子編『現代エチオピアの女たち：社会変化とジェンダーをめぐる民族誌』（明石書店）、pp. 236-260.

Hirosi NAKAGAWA (2018) “Linguistic features and typologies in languages commonly referred to as ‘Khoisan’” (co-authored with Alena Witzlack-Makarevich). In *The Cambridge Handbook of African Linguistics*. Ed. Ekkehard Wolff, Cambridge: Cambridge University Press.

中山裕美(2017)「難民レジームの危機の検討：負担分担と安全保障の関連から」、『国際安全保障』45(3): 35-50.

中山裕美(2018)「移民ガバナンスにおける地域間主義の意義——アフリカ—ヨーロッパ間の地域協議プロセスの検討から」、『国際政治』190: 33-48.

大石高典 (2017)「第3回研究報告会：集落配置の全球誌」、村松伸編『住むことの全球全誌——2017年研究集会報告書』（東京大学生産技術研究所）、 pp. 27-38.

大石高典 (2017)「消費の視点から狩猟を捉えなおす」、『民博通信』157号 (国立民族学博物館)、pp. 20-21.

黒田末寿・今北哲也・野間直彦・島上元子・増田和也・中西康介・鈴木玲治・大石高典 (2017)「滋賀県高島市のホトラ山」、『生態人類学会ニュースレター』No. 23 (生態人類学会)、pp. 36-38.

Kohske TAKAHASHI, Takanori OISHI, Masaki SHIMADA (2017) “Is (^_^) Smiling?: Cross-cultural Study on Recognition of Emoticon’s Emotion”. *Journal of Cross-Cultural Psychology* 48(10): 1578-1586. (査読有り)

大石高典 (2018)「ウィリアム・バリー」、岸上伸啓編『はじめて学ぶ文化人類学』（ミネルヴァ書房）。(印刷中)

坂井真紀子(2017)「アフリカ農村における現金の貸し借りの歴史 (2) —植民地以前のローカル金融とその変化—」、『東京外国語大学論集』95: 171-187.

武内進一(2017)「アフリカにおける土地政策の新展開と農村変容」、武内進一編『現代アフリカの土地と権力』(アジア経済研究所)、pp.3-34。(査読有り)

武内進一(2017)「土地政策と農村変容—ルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国西部」、武内進一編『現代アフリカの土地と権力』(アジア経済研究所)、pp.259-291。(査読有り)

武内進一(2017)「近年のアフリカにおける土地改革と農村変容をどうとらえるか」、武内進一編『現代アフリカの土地と権力』(アジア経済研究所)、pp.293-310。(査読有り)

武内進一(2017)「政治—長期の視点でアフリカを理解する」、遠藤貢・関谷雄一編『社会人のための現代アフリカ講義』(東京大学出版会)、pp.53-78。

【学会・シンポジウム等での報告】

Kazue DEMACHI “Periphery or Battlefield: Africa in the International Economy”. *African Studies Center – TUFSS “Kick-off” Symposium “Frontiers of African Studies”*. November 3, 2017 (Tokyo University of Foreign Studies).

石川博樹 「ポルトガル植民地期 PALOP における南米原産作物栽培:アンゴラとモザンビークを中心に」、日本アフリカ学会第 54 回学術大会、口頭発表、2017 年 5 月 20 日 (信州大学教育学部)。

荻谷康太 「17 世紀の西アフリカ・ムスリム社会における奴隷売買の基準:アフマド・バーバー『階梯』の分析」、日本アフリカ学会第 54 回学術大会、2017 年 5 月 20 日 (信州大学教育学部)。

Hitomi KIRIKOSHI “Commercial Network Built on Distribution System of Kola in West Africa”. *International Symposium “Voices for the future: African Area Studies in a globalizing world”*. Poster, December 2-3, 2017 (Inamori Memorial Foundation Building, Kyoto University).

松波康男 「南スーダンの現状と国際社会の関与」、現代アフリカ地域研究センター第 4 回 ASC セミナー／日本アフリカ学会第 2 回関東支部例会、2017 年 9 月 27 日 (東京外国語大学本郷サテライト)。

中川裕 「コイサン 3 語族を横断する音韻特徴:遺伝子的距離との関係」、日本アフリカ学会第 54 回学術大会、口頭発表、2017 年 5 月 20 日 (信州大学教育学部)。

中川裕 「クリック子音体系の言語獲得:グイ語事例研究」、日本言語学会第 154 回大会、口頭発表、2017 年 6 月 24 日 (首都大学東京)。

Hiroshi NAKAGAWA “Clicks in acquisition in G|ui”. 科学研究費 (基盤研究 A) 「稀少特徴と言語地域の音韻類型論:コイサン音韻論の貢献」プロジェクト研究集会、口頭発表、2017 年 8 月 18 日 (Jena, Germany)。

中川裕 「コイサン諸語における器質性構音障害の症例:軽度舌小帯短縮症のグイ語話者によるクリック子音音素の発音」、日本言語学会第 155 回大会、口頭発表、宇野園子と共著、2017 年 11 月 25 日 (立命館大学)。

中山裕美 「突発事態とガバナンスの可変性—難民ガバナンスにおける多主体連携の構築—」、グローバル・ガバナンス学会第 10 回研究大会、2017 年 5 月 13 日 (名古屋大学・東山キャンパス)。

Yumi NAKAYAMA "Migration Governance: Migration within and from Africa". *African Studies Center – TUFSS “Kick-off” Symposium “Frontiers of African Studies”*. November 3, 2017 (Tokyo University of Foreign Studies).

Yumi NAKAYAMA "The transformation of Japanese refugee policy and refugee crises: the relational change between UNHCR, state-actors and non-state actors". *Symposium: The Global Refugee Crisis: Mobile people under state protection or exploitation?* January 5-6, 2018 (Middle East Institute, National University of Singapore).

大石高典 「ニホンミツバチの養蜂におけるマルチスピーシーズな関係——海外事例との比較からみた国内研究の展望」、第 51 回日本文化人類学会研究大会講演分科会【他種と「ともに生きる」ことの民族誌】(代表者：奥野克巳)、口頭発表、2017 年 5 月 27 日(神戸大学・鶴甲第一キャンパス)。

大石高典 「著者解題：大石高典(著)『民族境界の歴史生態学——カメルーンに生きる農耕民と狩猟採集民——』(京都大学学術出版会、2016 年)」、<FACT16: The Author Meets The Critics> 『筑波人類学研究会第 18 回定例会/FACT16』、2017 年 4 月 16 日(筑波大学東京キャンパス)。

大石高典 「熱帯アフリカ都市住民の動物タンパク源消費嗜好性——コンゴ共和国ブラザビルの事例——」、日本熱帯生態学会第 27 回年次大会、口頭発表、2017 年 6 月 17 日(奄美文化センター)。

大石高典 「アフリカ都市住民の動物蛋白源嗜好性——コンゴ共和国ブラザビルの事例」、共同研究(若手)「消費からみた狩猟研究の新展開——野生獣肉の流通と食文化をめぐる応用人類学的研究」2017 年度第 1 回公開研究会、2017 年 7 月 29 日(国立民族学博物館)。

鎌水秀和・錢琨・大石高典・島田将喜・高橋康介 「自然風景画像からの地域推定における色情報の効果」、日本心理学会第 81 回大会、ポスター発表、2017 年 9 月 20~22 日(久留米大学)。

Takanori OISHI "Sustaining forest livelihoods in an era of climate change: Dialogue beyond ‘participation’ and ‘community’ arguments". *African Studies Center – TUFSS “Kick-off” Symposium “Frontiers of African Studies”*. November 3, 2017 (Tokyo University of Foreign Studies).

大石高典 「カメルーンにおけるハニー・ハンティングと養蜂」、『ミツバチサミット 2017』ポスターセッション、ポスター発表、2017 年 11 月 11~12 日(筑波大学大学会館)。

高橋康介・島田将喜・大石高典・錢琨 「続・顔と身体表現の多文化比較フィールド実験研究」、公開シンポジウム『トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築(第 2 回)』、2017 年 12 月 2 日(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)。

大石高典 「趣旨説明：獣肉をめぐる犬と人の関係」、共同研究(若手)「消費からみた狩猟研究の新展開——野生獣肉の流通と食文化をめぐる応用人類学的研究」2017 年度第 2 回研究会、2017 年 12 月 16 日(国立民族学博物館)。

Takanori OISHI "Tobacco, smoking wild plants and alcohol: evolutionary cultural anthropology of ‘shikohin’ in central African forests". *TUFSS-TUAT Joint Symposium: “Regional Biological Resources in Tropical Africa”* (Co-organized by IEAS, Tokyo University of Agriculture and Technology <TUAT>, African Studies Center–Tokyo University of Foreign Studies<TUFSS>). December 23rd, 2017 (University of Agriculture and Technology).

大石高典 「持続可能な獣肉消費の条件をさぐる」、RIHN Feast Project Annual Assembly 2017-2018、招待

講演、2018年1月6日（Research Institute for Humanity and Nature）。

島田将喜・高橋康介・大石高典・錢琨(2018)「多文化比較フィールド実験研究を実現するということ」、日本視覚学会2018年冬季大会・大会企画シンポジウム『多文化をつなぐ顔と身体表現』（企画者：山口真美中央大学教授）、招待講演、2018年1月18日（工学院大学新宿キャンパス）。

Noriko IIZUKA, Takanori OISHI "Relier les enfants du monde par l'education environnementale: au-dela de la nature et du monde de la ville". *L'atelier internatinal: Potentiel de l'education environnementale chez les enfants Baka du Cameroun* (Co-organized by CADDAP, OKANI, MEM, CSEAS-KU and ASC-TUFS). Hotel Residence le Zurikoi, Abong Mbang, L'Est, Cameroun, February 5, 2018.

畠山佳奈実・大石高典・黒田末寿・野間直彦・車田翔平・須田元輝・根本和洋・松島憲一「滋賀県長浜市余呉町の在来トウガラシ品種‘よのみ’の果実特性と利用法」、園芸学会平成30年度春季大会、2018年3月24～25日予定（近畿大学）。（準備中）

大石高典「熱帯狩猟採集民社会における社会的存在としての犬——カメルーンのパカ・ピグミーにおける犬をめぐる社会関係とトレーニング」、第23回生態人類学会研究大会、ポスター発表、2018年3月24～25日予定（ユイinchホテル南城）。（準備中）

坂井真紀子 「カメルーン西部州における 野菜の栽培と販売 ～定期市を利用した野菜小売商の仕入れ形態に注目して～」、第54回日本アフリカ学会学術大会、2017年5月20日（信州大学教育学部）。

Makiko SAKAI "Local Periodic Markets in West Cameroun - Women vendor networks for vegetable marketing -". *TUFS-TUAT Joint Symposium: "Regional Biological Resources in Tropical Africa"* (Co-organized by IEAS, Tokyo University of Agriculture and Technology <TUAT>, African Studies Center-Tokyo University of Foreign Studies <TUFS>). December 23rd, 2017 (University of Agriculture and Technology).

Makiko SAKAI "Impact of Chinese motorcycles on the Rural Socio-economy in West Caeroon". *International Conference "The Rise of Asia"*, Asia-Africa session (1), Session Coordinator (Asia-Africa relations(1) (2). March 14-16, 2018 (Paris and Le Havre).

Wakana SHIINO "House girl and 'family' in Nairobi". *The Study meeting for JSPS Uganda-Japan Bilateral Joint Research Project : Diversification and Reorganization of 'Family' in Uganda* (Wakana Shiino & Mpyangu Christine Mbabazi). September 5, 2017 (College of Humanities and Social Sciences, Makerere University, Kampala).

Wakana SHIINO "Family". *Circumstances Supported by House Girl in Nairobi, International Joint Research by Female Researchers, Initiative for Realizing Diversity in the Research Environment (JST), Family Transformation in Rapidly Developing Asia-Africa Societies Faced with Economic Disparity, Urbanization and War*. November 4-5 2017 (Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa<ILCAA>, Tokyo University of Foreign Studies <TUFS>).

椎野若菜 「女性の人生選択の現実に直面する：東アフリカ・ケニア村落にて」、FENICS EVENT 「フィールドで／教室で社会問題と出会う」、2017年12月09日（カフェ・スペース ポレポレ座）。

椎野若菜 FENICS サロン「子育てフィールドワーカーのロールモデルを探る」（共催：京都大学大学院

アジア・アフリカ地域研究研究科<ASAFAS>子育てフィールドワーカワーキンググループ、ASAFAS
キャリア・ディベロップメント室との共催)、2018年1月20日(京都大学)。

品川大輔 「シェンの2つの流動性」、2017年5月20日(信州大学教育学部)。

品川大輔 「スワヒリ語を基盤とする都市混合言語における新たな文法特徴の創出」、日本言語学会第154
回学術大会 ワークショップ「スワヒリ語圏アフリカにおける多言語状況の実態—言語接触状況下での多
様な言語現象から捉える—」(企画・司会:品川大輔)、2017年6月25日(首都大学東京)。

Daisuke SHINAGAWA “Microparametrizing ní in Kilimanjaro Bantu: A test case from Uru (and Rombo)”. *Project
meeting of "Morphosyntactic variation in Bantu: Typology, Contact and Change"*. October 25, 2017 (SOAS,
University of London).

Daisuke SHINAGAWA “On some typological characteristics and their group-internal variation in Kilimanjaro Bantu
languages”. *Linguistics departmental seminar series, SOAS*. October 31, 2017 (SOAS, University of London).

武内進一 「人口希薄地帯における土地囲い込み—コンゴ民主共和国西部の事例 (Enclosure in population
scarcity: the case of western DR Congo)」、日本アフリカ学会第54回学術大会、口頭発表 (Raymond
Lumbuenamo, Guy-Verlain Tshimanga wa Tchimanga と共著)、2017年5月21日(信州大学教育学部)。

武内進一 「内戦後の土地問題と国際規範—ルワンダ、ブルンジの事例から」、2017年度国際法学会研究
大会、口頭発表、2017年9月5日(朱鷺メッセ:新潟コンベンションセンター)。

武内進一 「デモクラシーと世界秩序」、日本国際政治学会2017年度研究大会プログラム 共通論題パネ
リスト(西崎文子、遠藤乾、吉川元、川島真とともに登壇)、2017年10月28日(神戸国際会議場)。

Shinichi TAKEUCHI “Introduction”. *African Studies Center – TUFS “Kick-off” Symposium “Frontiers of African
Studies”*. November 3, 2017 (Tokyo University of Foreign Studies).

Shinichi TAKEUCHI “African Enclosure in the Context of Land Law Reforms”. *African Studies Association 60th
Annual Meeting*. (Panel Organizer Land Reform, Rural Changes, and Political Power in Africa). November 18, 2017.
Chicago.

Shinichi TAKEUCHI “Land and Power in Contemporary Africa: Understanding Drastic Rural Changes in the Age
of Land Reform”、東京外国語大学大学院国際日本学研究院・現代アフリカ地域研究センター共催シンポジ
ウム『日本—アフリカ関係を通じたグローバル資本主義の批判的検討:土地、空間、近代性』、2018年1
月29日(東京外国語大学研究講義棟101教室)。

【講演】

出町一恵 「教育機会としての職業訓練—エチオピアの事例より」、「アフリカ潜在力」と現代世界の困難
の克服(科研費S研究会,研究代表者:京都大学 松田素二)開発・生業班第3回研究会、2017年6月17
日(京都大学稲盛記念館)。

出町一恵 「低開発資源国のマクロ経済運営の課題」、財務総合政策研究所「ASEAN 勉強会」、2017年12

月 14 日（財務省）。

出町一恵 「途上国債務の現状についての考察： アフリカの事例より」、グローバル政治経済学（GPE）研究会、2018 年 1 月 25 日（立教大学）。

深澤秀夫 「マダガスカルにおける老いと力 —祝福・呪詛・勘当・邪術—」、在マダガスカル・邦人会文化講演会、2017 年 2 月 18 日（在マダガスカル・日本大使館）。

深澤秀夫 「マダガスカル人はどのようにしてマダガスカル人になるのか？ —通過儀礼から見たマダガスカル人の一生—」、在マダガスカル・邦人会文化講演会、2017 年 9 月 30 日（在マダガスカル・日本大使館）。

深澤秀夫 「マダガスカルの村から見えてくるもの マダガスカルの村で考えたこと」、めぐろシティカレッジ、2017 年 11 月 11 日（都立桜修館中等教育学校）。

深澤秀夫 「うまいぜ！マダガスカル料理 —食事と料理を通して見るマダガスカルの人びとの生活と文化」、在マダガスカル・邦人会文化講演会、2018 年 2 月 24 日（在マダガスカル・日本大使館）。

桐越仁美 「西アフリカの交易と人びとの生活～地域を越えた交流の歴史に着目して～」中央公園文化センター・来た KITA オリパラプロジェクト【サハラ以南アフリカへのいざない～歴史・文化・生活～】第 4 回講座、招待講演、2017 年 11 月 5 日（中央公園文化センター）。

中川裕 「ブッシュマンの道具を言語学的に見る」、FIELDPLUS トークイベント「砂漠の狩人の半世紀：ブッシュマンの伝統と変容」、2017 年 7 月 15 日（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）。

大石高典 「日常としてのゴリラ人間——コンゴ盆地北西部熱帯林における人間と非人間のインターフェース」、一橋大学大学院社会学研究科授業科目『先端課題研究：human/non-human interface の社会・文化的研究』、ゲスト講義、2017 年 5 月 31 日（一橋大学国立キャンパスマーキュリータワー）。

大石高典 「【人間ゴリラ】は展示できるか——生き物と共にあることの探求」、第 7 回博物館研究会、口頭発表、2017 年 7 月 22 日（北海道大学総合博物館 1 階「知の交差点」）。

大石高典 「世界の狩猟犬文化を考える——カメルーンの狩猟民族の事例から——」20 分プレゼン大会、『第 5 回狩猟サミット』（主催：猪鹿庁合同会社）、2017 年 10 月 21 日（母袋温泉・アウトドアイン母袋スキー場）。

大石高典 「中部アフリカ熱帯林の歴史・文化・生活—ピグミーと農耕民の共存関係をめぐって」、中央公園文化センター・来た KITA オリパラプロジェクト【サハラ以南アフリカへのいざない～歴史・文化・生活～】第 4 回講座、招待講演、2017 年 11 月 19 日（中央公園文化センター）。

大石高典 「森でゴリラに出会ったら（カメルーン バカ・ピグミー）」、子ども・親子向け ワークショップ『京都で世界を旅しよう！2017 地球たんけんたい⑥』、一般/児童むけ講演、2017 年 12 月 9 日（京都パルスプラザ）。

OISHI Takanori (in prep) "Does a “Cultural Landscape” Exist in the Forest Landscapes of the Congo Basin?: From the case study in the Lower Reaches of the Dja River in Southeastern Cameroon". *International Symposium by the*

Special Research Project of Minpaku (National Museum of Ethnology): Human Relationships with Animals and Plants: Perspectives of Historical Ecology. Invited Lecture. March 19-21th, 2018 (National Museum of Ethnology).

坂井真紀子 「世界を食べようーアフリカ料理をめぐる旅」、朝日カルチャーセンター横浜教室、2017年4月15日（朝日カルチャーセンター横浜教室）。

坂井真紀子 「アフリカの朝ごはん」、朝日カルチャーセンター横浜教室、2018年2月17日（朝日カルチャーセンター横浜教室）。

椎野若菜 「子連れ国際学会、フィールドワーク：子どもの成長にあわせて調査スタイルを変える」、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(牽引型)、若手研究者キャリア形成支援セミナー『あなたもできる！子連れフィールドワーク実践ノウハウ』、2017年7月11日（東京外国語大学 研究講義棟1階110教室）。

椎野若菜 「アフリカにおける結婚制度の今；ケニアにおける一夫多妻制・代理夫」、めぐろシティカレッジ(目黒区生涯学習)『世界は今！ー異文化理解のためにー』2017年9月23日（都立桜修館中等教育学校）。

椎野若菜 「子連れフィールドワークの調査スタイル：現地の幼稚園にいれてみる」、北海道大学低温科学研究所、人材育成本部女性研究者支援室共同プログラム『子育て、ライフイベントとフィールドワーク』、2017年10月26日（北海道大学低温科学研究所 講堂）。

椎野若菜 「サルをみる、ヒトをみる〈ヒトとサル、親と子、そしてベッド〉」、エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ連続上映、2017年12月3日（ポレポレ東中野）。

武内進一 「紛争はなぜ起こるのか・平和のための開発」、ジェトロ・アジア経済研究所 イデアス公開講座『はじめての国際開発論』、2017年4月23日（JICA 東京）。

武内進一 「資源安時代のアフリカ」、「ルワンダの奇跡とその政治的基盤」、アフリカビジネスセミナー、2017年5月25日（神戸商工貿易センター）。

武内進一 「アフリカの土地改革と農村変容」、ジェトロ・アジア経済研究所夏期公開講座（東京）コース11『アフリカの土地をめぐる政策と政治権力』、2017年9月25日（ジェトロ本部5階ABCD会議室）。

武内進一 「ルワンダの虐殺から考える」2017年11月7日（学習院女子大学）。

武内進一 「アフリカの紛争と平和構築」、第12回四大学連合文化講演会「環境・社会・人間における『安全・安心』を探るー安全で安心の出来る社会」、2017年11月24日（一橋講堂）。

武内進一 「民族紛争と和解：ルワンダ」、日本心理学会公開シンポジウム『紛争問題を考える2』、話題提供者、2017年12月16日（東京大学）。

Shinichi TAKEUCHI “Transformation of rural societies in Rwanda’s peacebuilding process.” Lecture at PIASS (Rwanda) on 23 February 2018.

【エッセイ】

- 深澤秀夫(2017)「日本で作ろう！マダガスカル料理 31 Aty sy Hranana」、『マダガスカル研究懇談会ニュースレター』36.
- 深澤秀夫(2017)「マダガスカルのことわざいろいろ 18」、『マダガスカル研究懇談会ニュースレター』36.
- 深澤秀夫(2017)「日本で作ろう！マダガスカル料理 32 Kitoza」、『マダガスカル研究懇談会ニュースレター』37.
- 深澤秀夫(2017)「マダガスカルのことわざいろいろ 19」、『マダガスカル研究懇談会ニュースレター』37.
- 石川博樹(2017)「アフリカ史から歴史と世界について考える」、『GLOBE Voice』12: 7.
- 桐越仁美(2017)「進むべき道を見る目」、特定非営利活動法人アフリック・アフリカ公式ウェブサイト.
- 桐越仁美(2018)「牛たちの軌跡」、『フィールドで出会う 風と人と土 シリーズ エッセイ集』pp.32-38. (印刷中)
- 桐越仁美(2018)「ガーナの子どもと何して遊ぶ？—トトロゴっことだるまさんが転んだ—」、『フィールドで出会う 風と人と土 シリーズ エッセイ集』(編集)
- 中川裕(2017)「カラハリ狩猟採集民の語彙研究から言語の普遍性と多様性の理解へ」、『フィールドプラス』18: 4-5. (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所).
- 中川裕(2017)「グイ・ガナ語の『食べる』と温度語彙」、『フィールドプラス』18: 6-7. (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所).
- 大石高典(2017)「不思議な魚に関わる不思議な人々の物語—『ウナギと人間』 ジェイムズ・プロセック [著] 小林正佳 [訳] 築地書館」、『ビオストーリー』28号【必読書コーナー】(生き物文化誌学会)、p. 109.
- 大石高典(2017)「河童のアフリカ研究(連載)」、俳誌『氷室』(氷室発行所).
- 大石高典(2018)「歴史が知を育む—アフリカの森と図書館の共通性」、読書冊子『pieria』(東京外国語大学出版会). (印刷中)
- 椎野若菜(2018)「フィールドで出会う社会：フィールドワーカーって」、しんぶん赤旗、2018年3月2日.
- 椎野若菜(2018)しんぶん赤旗「フィールドで出会う社会：失敗から教わる発見が」、しんぶん赤旗、2018年3月9日
- 品川大輔(2017)「時を知らせるメロディーを聴く」、『Globe Voice』12: 16-17.

【その他】

- 中川裕 展示会「田中二郎写真展：一九七〇年代までの伝統的狩猟採集生活を送るブッシュマン」、2017年7月6日～7月28日(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所1階資料展示室).
- 大石高典・田中正隆 (2017)「The 6th IAS Humanities Korea (HK) International Conference: Visualizing Crossing

and Hybridity in African Societies and Cultures 参加報告』『アフリカ研究』91: pp. 57-61.

大石高典 (2017) 「コメント 2 生態人類学」、河合香吏編『【他者——人類社会の進化】(河合香吏編、京都大学学術出版会、2016) をめぐって (2016 年度基幹研究「アジア・アフリカにおけるハザードに対する『在来知』の可能性の研究——人類学におけるマイクロ・マクロ系の連関 2」公開シンポジウム報告書)』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)、pp. 63-70.

大石高典(2017) 公開研究会「獣肉利用の産業化と嗜好性、解体方法、ジェンダー」、共同研究(若手)『消費からみた狩猟研究の新展開——野生獣肉の流通と食文化をめぐる応用人類学的研究』2017 年度第 1 回公開研究会/第 8 回マルチスピーシーズ人類学研究会共催、2017 年 7 月 29~30 日(国立民族学博物館)。(近藤祉秋と共同で企画、運営・司会)

大石高典 (2017) 公開研究会&ワークショップ『第一回中部アフリカ研究会 in Tokyo: ヒップホップ』、2017 年 11 月 24 日(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)。(中里明祐美と企画、運営・司会)

坂井真紀子(2018) コメント、「日本—アフリカ関係を通じたグローバル資本主義の批判的検討：土地、空間、近代性」、東京外国語大学大学院国際日本学研究院、現代アフリカ地域研究センター共催シンポジウム、2018 年 1 月 29 日。

坂井真紀子(2018) 書評「アフリカ潜在力 3 開発と共生のはざままで—国家と市場の変動を生きる—」(高橋基樹・大山修一編<太田至シリーズ総編集>/京都大学出版会、2016 年)、アフリカ研究 92 号。

武内進一(2017) 「Lindsay Whitfield, Ole Therkildsen, Lars Buur, and Anne Mette Kjaer, "The Politics of African Industrial Policy"」、『アフリカレポート』55: 107。(資料紹介)

武内進一(2018) 「三須拓也 著 『コンゴ動乱と国際連合の危機——米国と国連の協働介入史、1960~1963 年——』』『アフリカレポート』56: 12.

4-2.教育活動

氏名	内容
出町一恵	東京外国語大学「卒業論文」、2017 年
出町一恵	東京外国語大学「地域言語 A(英語Ⅲ-7)」、2017 年春学期
出町一恵	東京外国語大学「地域言語 A(英語Ⅲ-7)」、2017 年春学期
出町一恵	東京外国語大学「英語表現演習Ⅱ」、2017 年秋学期
出町一恵	東京外国語大学「キャリアデザイン論 3A」、2017 年春学期
出町一恵	東京外国語大学「国際経済学 A」、2017 年春学期
出町一恵	東京外国語大学「国際経済学 A (専門演習)」、2017 年春学期
出町一恵	東京外国語大学「卒業論文演習 A」、2017 年春学期
出町一恵	東京外国語大学「国際関係研究 3」、2017 年春学期
出町一恵	東京外国語大学「地域言語 A(英語Ⅲ-8)」、2017 年秋学期
出町一恵	東京外国語大学「英語表現演習Ⅰ」、2017 年秋学期
出町一恵	東京外国語大学「国際経済概論 A」、2017 年秋学期

出町一恵	東京外国語大学「国際経済概論 B」、2017 年秋学期
出町一恵	東京外国語大学「経済学 B」、2017 年秋学期
出町一恵	東京外国語大学「国際経済学 B」、2017 年秋学期
出町一恵	東京外国語大学「国際経済学 B (専門演習)」、2017 年秋学期
出町一恵	東京外国語大学「卒業論文演習 B」、2017 年秋学期
出町一恵	東京外国語大学「国際関係研究 4」、2017 年秋学期
出町一恵	立命館大学国際関係学部 Lecture series “Research Training”. “Struggle for an ordinary result, strive for a simple story”, 2016 年 6 月 22 日.
Denis Sonwa	東京外国語大学「アフリカ地域研究 B」、2017 年冬学期集中
深澤秀夫	東京外国語大学「アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究 1」、2017 年春学期
深澤秀夫	東京外国語大学「文化人類学」、2017 年春学期
深澤秀夫	東京外国語大学「文化人類学」、2017 年秋学期
石川博樹	東京外国語大学「アフリカ地域研究 A」、2017 年春学期
石川博樹	東京外国語大学「アフリカ地域研究(講義)」、2017 年春学期
石川博樹	東京外国語大学「アフリカ歴史文化論」、2017 年春学期
石川博樹	東京外国語大学「アフリカ歴史文化論」、2017 年秋学期
石川博樹	青山学院大学「東洋史特講」、2017 年春学期
石川博樹	放送大学面接授業「近現代世界のなかのアフリカ」、2017 年春学期
石川博樹	放送大学大学院ラジオ講座「アフリカ世界の歴史と文化」、2017 年春学期
石川博樹	青山学院大学「東洋史特講」、2017 年秋学期
石川博樹	慶應義塾大学「歴史Ⅱ 現代社会の中のアフリカ史」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「卒業論文」、2017 年
箕浦信勝	東京外国語大学「言語研究入門 A」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学概論 A」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学基礎」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学 A」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学 A(専門演習)」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学特殊研究 A」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「卒業論文演習 A」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学(講義)」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学研究 1」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学(演習)」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「記述言語学研究」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学特殊研究(講義)」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「卒業論文演習」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「修士論文修士研究ゼミ 1」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語基礎論」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「基礎演習」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語研究入門 B」、2017 年秋学期

箕浦信勝	東京外国語大学「言語学概論 A」、2017 年春学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学基礎」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学 B」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学 B(専門演習)」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学特殊研究 B」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「卒業論文演習 B」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学(講義)」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学研究 2」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学(演習)」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「記述言語学研究」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語学特殊研究(講義)」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「卒業論文演習」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「修士論文修士研究ゼミ 1」、2017 年秋学期
箕浦信勝	東京外国語大学「言語基礎論」、2017 年秋学期
中川裕	東京外国語大学「音声学概論 A」、2017 年春学期
中川裕	東京外国語大学「音声学 A(専門演習)」、2017 年春学期
中川裕	東京外国語大学「卒業論文演習 A」、2017 年春学期
中川裕	東京外国語大学「音声学研究 1」、2017 年春学期
中川裕	東京外国語大学「言語記述理論(演習)」、2017 年春学期
中川裕	東京外国語大学「音声学研究」、2017 年春学期
中川裕	東京外国語大学「修士論文修士研究ゼミ 1」、2017 年春学期
中川裕	東京外国語大学「言語基礎論」、2017 年春学期
中川裕	東京外国語大学「基礎演習」、2017 年秋学期
中川裕	東京外国語大学「音声学概論 B」、2017 年秋学期
中川裕	東京外国語大学「音声学 B(専門演習)」、2017 年秋学期
中川裕	東京外国語大学「卒業論文演習 B」、2017 年秋学期
中川裕	東京外国語大学「音声学研究 2」、2017 年秋学期
中川裕	東京外国語大学「言語記述理論(演習)」、2017 年秋学期
中川裕	東京外国語大学「音声学研究」、2017 年秋学期
中川裕	東京外国語大学「修士論文修士研究ゼミ 1」、2017 年秋学期
中川裕	東京外国語大学「言語基礎論」、2017 年秋学期
中山裕美	東京外国語大学「卒業論文」、2017 年
中山裕美	東京外国語大学「国際政治概論 A」、2017 年春学期
中山裕美	東京外国語大学「国際政治概論 B」、2017 年春学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論基礎」、2017 年春学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論 A」、2017 年春学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論 A(専門演習)」、2017 年春学期
中山裕美	東京外国語大学「卒業論文演習 A」、2017 年春学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係研究 1」、2017 年春学期

中山裕美	東京外国語大学「国際関係論(講義)」、2017年春学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論(演習)」、2017年春学期
中山裕美	東京外国語大学「卒業論文演習」、2017年春学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論入門B」、2017年秋学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論基礎」、2017年秋学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論B」、2017年秋学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論B(専門演習)」、2017年秋学期
中山裕美	東京外国語大学「卒業論文演習B」、2017年秋学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係研究2」、2017年秋学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論(講義)」、2017年秋学期
中山裕美	東京外国語大学「国際関係論(演習)」、2017年秋学期
中山裕美	東京外国語大学「卒業論文演習」、2017年春学期
大石高典	東京外国語大学「卒業論文」、2017年
大石高典	東京外国語大学「地域言語A(英語Ⅱ-1)」、2017年春学期
大石高典	東京外国語大学「地域基礎2A(アフリカ1)」、2017年春学期
大石高典	東京外国語大学「アフリカ地域研究A」、2017年春学期
大石高典	東京外国語大学「アフリカ地域研究A(専門演習)」、2017年春学期
大石高典	東京外国語大学「卒業論文演習A」、2017年春学期
大石高典	東京外国語大学「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究17」、2017年春学期
大石高典	東京外国語大学「地域言語A(英語Ⅰ)」、2017年秋学期
大石高典	東京外国語大学「地域言語A(英語Ⅰ-9)」、2017年秋学期
大石高典	東京外国語大学「地域言語A(英語Ⅱ-6)」、2017年秋学期
大石高典	東京外国語大学「アフリカ地域研究B」、2017年秋学期
大石高典	東京外国語大学「アフリカ地域研究B(専門演習)」、2017年秋学期
大石高典	東京外国語大学「卒業論文演習B」、2017年秋学期
大石高典	東洋大学大学院社会学研究科「社会学特論V」、2017年
大石高典	東洋大学大学院社会学研究科「社会心理学研究法Ⅳ」、2017年
大石高典	東京外国語大学「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究18」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「地域言語A(英語Ⅰ)」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「地域言語B(アフリカ関連語6)」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「教養外国語(フランス語B3)」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「地域基礎2B(アフリカ1)」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ地域研究A」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ地域研究A(専門演習)」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「卒業論文演習A」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究17」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アジア・アフリカ政治経済論」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「修士論文修士研究ゼミ1」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ地域研究(講義)」、2017年春学期

坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ地域研究(演習)」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ政治経済論」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「卒業論文演習」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「地域言語 A(英語 I)」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「地域言語 A(英語 I-9)」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「地域言語 B(アフリカ関連語 7)」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「教養外国語(フランス語 B2)」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「地域基礎 2A(アフリカ 2)」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ地域研究 B」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ地域研究 B(専門演習)」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「卒業論文演習 B」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アジア・アフリカ政治経済論」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「修士論文修士研究ゼミ 2」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ地域研究(講義)」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ地域研究(演習)」、2017年春学期
坂井真紀子	東京外国語大学「アフリカ政治経済論」、2017年秋学期
坂井真紀子	東京外国語大学「卒業論文演習」、2017年秋学期
品川大輔	東京外国語大学地域言語 C「スワヒリ語初級」、2017年春学期
品川大輔	東京外国語大学地域言語 C「スワヒリ語中級」、2017年春学期
椎野若菜	東京外国語大学「アフリカ言語文化論」、2017年春学期
椎野若菜	東京外国語大学「アフリカ言語文化論」、2017年秋学期
武内進一	IDE Advanced School, Special Lecture "Introduction to African Studies". December 1, 2017.
武内進一	IDE Advanced School, Special Lecture "Peace, Conflict, and Development". January 15, 22, 2018.
武内進一	東京外国語大学総合国際学研究所「現代アフリカ政治」、2017年秋学期
武内進一	政策研究大学院大学「博士論文指導」、2017年

別添

キックオフ・シンポジウムおよび ASC セミナーチラシ一覧